

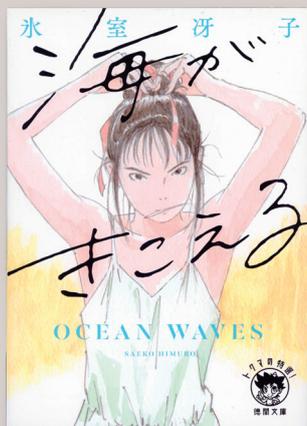


特別展

氷室冴子の世界

ふくれっつらのヒロインたち

HIMURO SAEKO



大好きなあの ヒロインたちが 大集合!!

2024. **9.7** | 土 | — **11.10** | 日 |

【開館時間】 9時30分～17時(入場は16時30分まで)

【休館日】 9月9日(月)、9月17日(火)、9月24日(火)、9月30日(月)、10月7日(月)、10月15日(火)、10月21日(月)、10月28日(月)

【観覧料】 一般700(550)円、65歳以上の方・高大生450(350)円、小中生300(200)円

* ()内は10名以上の団体料金

* 学校の教育活動の一環として観覧する小中高生と引率教員、身体障害者手帳などをお持ちの方と引率者などは観覧無料となります。詳細は文学館までお問い合わせください。

主催：北海道立文学館、公益財団法人北海道文学館(北海道立文学館指定管理者)、北海道新聞社、NHK札幌放送局
後援：札幌市、札幌市教育委員会 特別協力：集英社 協力：小学館、スタジオジブリ、徳間書店、白泉社、氷室冴子さんを偲ぶ会【藤花忌】、氷室冴子青春文学賞、藤女子大学、開智国際大学、岩見沢市立図書館、北海道立図書館
広報協力：新千歳空港国際アニメーション映画祭

上段：左から『クララ白書』(集英社文庫コバルトシリーズ、1980年)装画・挿画＝原田治、『雑居時代』上(集英社文庫コバルトシリーズ、1982年)装画・挿画＝星野かずみ、『多恵子ガール』(集英社文庫コバルトシリーズ、1985年)装画・挿画＝渡辺多恵子、『シンデレラ迷宮』(集英社文庫コバルトシリーズ、1983年)装画・挿画＝藤田和子、『月の輝く夜に／ざ・ちえんじ!』(集英社コバルト文庫、2012年)装画・挿画＝今市子 下段：左上から時計回りに『海がきこえる』(新装版)(徳間文庫、2022年)装画・挿画＝近藤勝也、『なんて素敵にジャパネスク』(集英社文庫コバルトシリーズ、1984年)装画・挿画＝峯村良子、『銀の海 金の大地』1(集英社コバルト文庫、1992年)装画・挿画＝飯田晴子

| 中島公園 | HOKKAIDO MUSEUM OF LITERATURE
北海道立文学館 特別展示室

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-4 tel.011(511)7655

<https://www.h-bungaku.or.jp/>

氷室冴子(ひむろ・さえこ、1957～2008年)は、岩見沢市出身の小説家です。岩見沢東高等学校を経て藤女子大学文学部国文学科に進学し、在学中にデビュー。1980年代から90年代にかけて集英社の少女向けレーベル「コバルト文庫」の代表作家として活躍します。平安時代を舞台にした「なんて素敵にジャパネスク」、スタジオジブリでアニメ化された「海がきこえる」、古代日本をテーマにしたファンタジー「銀の海 金の大地」など数々の人気作を生み出しました。氷室作品に登場する、自分の感情に素直に生きる「ふくれっつら」のヒロインたちは、時代を超えて生き生きとした魅力を放っています。多くの読者に愛され続ける氷室冴子の作品世界を多彩な資料とともにご紹介します。

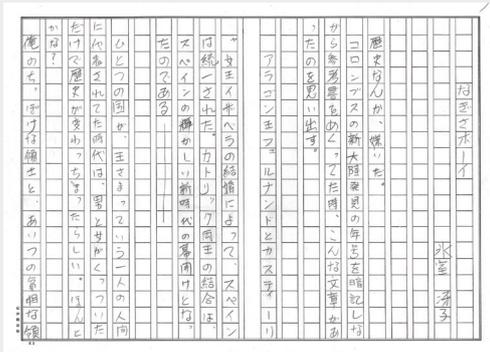
十二単姿の氷室冴子『冴子スペシャル ガールフレンド』(集英社文庫コバルトシリーズ、1990年)より 撮影=大嶋康行



ふくれっつらの
ヒロインたち

氷室冴子の世界

HIMURO
SAEKO



氷室冴子自筆原稿「なぎさボーイ」1984年 集英社蔵



『なんて素敵にジャパネスク』(山内直実、氷室冴子原作、白泉社花とゆめコミックス1巻、1989年)カバー原画 山内直実画 山内直実氏蔵



『海がきこえる』(氷室冴子、徳間書店、1993年)挿絵原画 近藤勝也画 近藤勝也氏蔵



左から：雑誌「コバルト」(集英社)1992年6月号・1995年6月号(『銀の海 金の大地』表紙イラスト=飯田晴子)、2001年6月号(『なんて素敵にジャパネスク』表紙イラスト=後藤星) 集英社蔵



『ライジング!』(藤田和子、氷室冴子原作、小学館フラワーコミックス4巻、1982年)扉原画 ©藤田和子/小学館



愛用のキーボード 田中二郎氏蔵

関連イベント

◆講演会

氷室作品のヒロインたち その魅力

9月15日(日)14:00～15:00 当館講堂(無料)
講師：嵯峨景子氏(ライター・書評家)
*要申込:8月29日(木)9:00から電話受付(先着順/定員50名)

◆芸文トーク

氷室冴子さんと私の文学少女時代

9月16日(月・祝)14:00～15:30 当館講堂(無料)
講師：ヤリタミサコ氏(詩人) 聞き手：嵯峨景子氏
*要申込:8月30日(金)9:00から電話受付(先着順/定員50名)

◆上映会「海がきこえる」

(原作:氷室冴子/監督:望月智充/キャラクターデザイン・作画監督:近藤勝也/スタジオジブリ若手制作集団/1993年/72分/アニメーション/DVD上映)

9月22日(日・祝)14:00～ 当館講堂(無料)
*要申込:9月5日(木)9:00から電話受付(先着順/定員50名)

◆ドキュメンタリー上映会

「没後15年 氷室冴子をリレーする」完全版

(NHK札幌放送局制作/2023年/43分)
①9月29日(日) ②10月9日(水) ③10月23日(水)
④11月6日(水)
各回14:00～ 当館講堂(無料)
*要申込:9月12日(木)9:00から電話受付(先着順/定員各回50名)

◆トークイベント

氷室冴子さんとコミカライズ

10月5日(土)14:00～15:30 当館講堂(無料)
講師:山内直実氏(漫画家)
*要申込:往復はがきでお申し込みください。定員50名。定員を超えた場合は抽選とし、結果を返信はがきにてお知らせします。

【往復はがきの記入方法】

往信用ウラ面にイベント名、氏名、住所、電話番号、先生へ聞いてみたい質問を記入し、9月10日(火)まで(当日消印有効)に当館(〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-4 北海道立文学館)にお送りください。返信用オモテ面には返信先の代表者住所・氏名を必ず明記して下さい。返信用ウラ面にはなにも記入しないで下さい。1枚のはがきで2名まで応募可。その際は2名分の氏名をお書きください。

※ほかにも関連イベントを予定しています。HP等でご確認ください。

●常設展のご案内/北海道の文学(通年開催)

北の大地に育まれた北海道の文学。自筆原稿や初版本など貴重な資料を展示。
観覧料:一般500(400)円、高大生250(200)円 中学生以下・65歳以上無料。
()内は10名以上の団体料金。高校生は土曜日無料。開館記念日(9月23日)、芸術週間(11月1日～7日)は無料。*詳細はお問い合わせください。

常設展
文学館アーカイブ
「嗚呼、メロン島」6月25日(火)～9月16日(月・祝)
「森田たまと素木しづ」9月28日(土)～12月28日(土)

●次回・特別展のご案内

「ファミリー文学館 雪が降る一本の中にも、文字の上にも……」

11月23日(土・祝)～2025年1月19日(日) 観覧料無料

北海道立文学館

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-4

- 地下鉄南北線【中島公園駅(出口③)】または【幌平橋駅(出口①)】から徒歩6分
- 市電【中島公園通】から徒歩10分
- JRバス【中島公園入口】から徒歩4分

【お問い合わせ】

tel.011-511-7655

fax.011-511-3266

https://www.h-bungaku.or.jp/

フェイスブック、X(旧ツイッター)でも

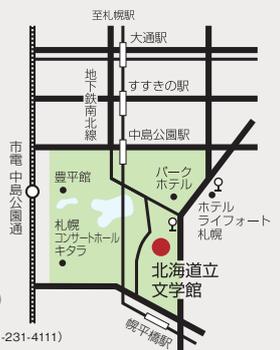
情報発信中!



当館HP

道立文学館

検索



施設設置者:北海道教育委員会(教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課(代)011-231-4111)
指定管理者:公益財団法人北海道文学館